

せいりゅう じねんそん おうばい さと
清流 自然村 桜梅の里

ヒュッテ 桂谷 ランプの宿

桂谷通信 No.144

2010.1(元旦号)

〒754-0001 山口県吉敷郡小郡町桂谷
TEL 083-972-8848 (ランプの宿)
TEL 083-976-0180 (編集室)
FAX 083-976-0181
携帯 090-4725-4196
編集・発行 畑山 静枝



2010年は.ボウの年で〜す!

旧年中は.何かとみなさま方には.大変.
お世話になりました.特に.7月の豪雨のときは.
心配かけたり.ボラテアに来て下さりと.本当に
感謝でいっぱいです.さて.今年は
また.何かとひまおやう.「カオーツ」と.
元気いっほいに いきましょう!



左のトウは.藤田順正の切り絵です.迫力満点!

初夢雪の里山 比い



みながるる活わ
昨年は.出る事が多くて...みなさんとは.
このわくをかけた.今年の夢は.
ふるさと旅行30周年の
全国大会もここで
やること...いっぱい
参加する予定です.

みなさん.おめでとくを言います!
ボクも.今年81才!
まだ元気でいっぱい
やるよー! 今年の夢は
神楽山に毎月及ぶること!
活わとしたは.みんな
元気いっほいに!

冬もまた良し
今年も記年の年!

- ・ランプの宿 15周年
- ・ふるさと旅行 30周年



ホットにゆずin桂谷



12/13(日) 9:00~14:00
 里山けんくわい講座
 講師はもろおかたみこさん。
 「玄米菜食でガンと克服」
 21名が、熱心に聴きました。
 玄米のおもずびもおいしかった!
 最後お名を覚えてます。資料の
 ほいお。うんちの箱まで。
 禅走寺山にも登って、いい汁のて
 け。ん。こうな一日。

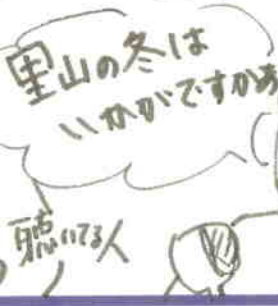
12/20(日) もちつき大会

2~3日前から、雪がふりて
 進むへい里山に、23人
 参加。ハッタン、ハッタン
 子でもから大人と仲良く。
 いつものベテランメンバーが
 いなくて、ちよと心苦しかったが
 みなさんの協力で、ついたよ。
 ドンブリのゲームが、あもしろいね。



佐伯節歌. KRYラジオ出演. 好子調!

< 毎週水曜日 10:20 ~ 10:30 >



毎週
 里山
 に来てもらってます。

2010(H22)1月のイベント案内

10日(日)
10:00~14:00
福クジ有り。

新春の集いをしま〜すヨ!

だれかをさそって来てみませんか!!

なんでもいいので、一品(食べるものとか)あや

けて来てくれるとうれしい! 会費はなし!

カシタ・トランプ・ドンクコマと。たのしいゲームいっぱい!

一応、参加したい人、TELしてね!! (083-972-8848へ)

布ぞり.初づくり教室で〜す!

☆講師の河内千ヨ子先生は今、布ぞり作りの

目標を3000足達成に向けて奮闘中とか!

そのパワーを、もらって、さあ、あなたも作りましょう。

会費1500円(昼食のみ)なので、布ぞり持参下さい。

16日(土)
10:00~15:00
・予約TELしてね

3 耳のニュース・山大より学生ボランティア

山形大学の生徒さん(男子学生3人)が、ランパの宿へ
木ランタアに来てくださっています。



ウーン、
こねていいかな...

たへたへナー

1/20は、ちよとちよつきの日。
人手が足りなくて、おもちを
丸めてもらいました。上手に
丸く丸めてましたよ。もちさん
についても、もらいました。

1/10は、ちよとハートの作業。
登山道の橋かけです。
ちよとボランティア募集!
よろしく!



冬將軍が一気に来て、里山はまたたくまに雪景色。

いろいろ庵の炭火にあたりながら、「きょうはだれも来ないだろうなあ、こんな雪の寒さじゃなあ」と、しみみりと今年の出来事を振り返ってみた。

なんたって、一番ショックだったのが、ログの死。あれから、どんないい犬を紹介されても飼う気にはなれない。散歩をしても、まだログの姿を無意識に捜している私だ。

先日の十三日、今年最後の「里山けんこう」いきがい講座を開催したときのこと。この日は三三講話として、萩在住のもろおかたみさんを講師に招き、「玄米菜食でがんを克服」と題して話していただいた。二十数人の参加者は、真剣に耳を傾け、もろおかさん持参の玄米のおにぎりをおいしそうに

食べていた。

がんは怖い病気だけど、もろおかさんのように食事療法で完治する場合もあるのだ。ただし、三日坊主になりや

モーター、年をトラントで生きるよ

すいので、精神面の強さがあるかも。

このあと、禅定寺山に登山。九歳から八十歳までの十九人全員が、がんはつて三九二メートルの山頂に立った。

その途中、ログの眠っている「かがや木」にお参りした。手を合わすと、ログがすぐそばで尻尾を振っている姿が目に見えた。

昼食後は、ドングリゴマのチャンピオン大会にわれを忘れて熱狂したり、輪になってお手玉を楽しんだりした。

さあ、行きはよいよい、帰りはこわい、だ。あの豪雨で、無残に破れた登山道を下りてみることにした。緑の山肌はバククリと削られ、巨岩や倒木が重なり合うように堆積(たいせき)した山道を、参加者たちはお互いに支え合いながら下りた。スリル満点の冒険だったけれど、自然の真の姿も見てもらえたのである。

豪雨のあと、里山ボランティアにやってきました外国の若者たち、いまごろど

うしているだろうか。山上の神様にお参りしたとき、

「このあたりを一生懸命整備してくれたなあ」と、明るくなった山の、さわやかな

空気を思いきり吸いながら、彼らをつかしく思った。

そして、私のアメリカ行き。

「こっちはマイナス二度の寒さよ。雪かき初体験したよ。英語では苦勞するけど、ようやく生活が楽しくなっ

きたよ」

の娘からのメールにホッとした。息子も昨年の入籍から一年ぶりに結婚式を挙げたし、ようやく親の務めを果たし終え、いよいよこの冬号で創刊三周年を迎える。さきと紀行の発送をするはかりとなった。

「三号で済(つぎ)れるだろう」と

といわれたとかいって、この日本一小さな出版社の季刊誌が苦節三十年を経て明年の四月(ご)に三三の宿で全国大会を開催するまでに成長した。このふるさと紀行あつてのランプの宿である。

そのランプの宿も開設十五年目を迎える。きりめき財団の助成事業で、今年には地下水を汲(く)み上げたし、高齢者の健康生きがいスペース拡張のため、住環境も整えた。すべて、人と人との出会い、温かい見守り、ご支援に心よの感謝しています。

雪のなかでも土木作業にがんばっている佐伯管理人、

「モーター、年はトラントと生きていくよ」

ホント、八十歳とは思えない若々しさでパワー。私も見習わなくっちゃ！(宇部市出身・ヒュッテ桂合ランプの宿マネジャー・山口市小郡在住)

里山日記も、五年余り、育ち続け、あつと目で終結と迎えます。
読んでくださる方、お楽しみください。良い年をお過ごしください。お元気で、